

短歌

令和六年度
阿南市春季短歌誌上大会 選

入選

お父さん春が来ましたよ仏飯に踏みそ添えて共に味わう

宮崎喜美子

だいたいようぶだいたいようぶだよと声かけて声かけあって長き道のり

郡 雅和

襟を立て人影まばら植木市くしゃみ一つが響いて通る

西井あつ子

「楽しかった」電話で弾む母の声「プリムラ買ってピオラ買ったんよ」

陶久 陽子

現し身の母と逢ふがに満開の菜花に染みつつ墓参へ急ぐ

廣瀬 艶子

しづもれる社に響く大太鼓五臓六腑に染み渡り来る

吉田 文恵

夫と吾が逝けば無人の家なれど床に傷付け不注意悔む

岡久 利永

秋扇少しきどって見得を切る

横井 知明

海亀の産卵見たり真夜の浜

岡久 玲子

碧波に経の消さるる浜施餓鬼

宮崎三千代

阿波踊もろ手宙舞ふ車椅子

駒木 幹正

稲穂揺れ田畑守った底力

東 良子

どうどうと抱きしめ眠る夏座布団

片山 幸美

俳句

阿南市俳句連合会 選

徘徊の母を探せば蓼の花

東條 明宏

鯛や墓参の遅れ詫びながら

鈴木 順子

青虫の残す葉脈アトめく

鈴木 順子

碧波に経の消さるる浜施餓鬼

東 良子

阿波踊もろ手宙舞ふ車椅子

駒木 幹正

稲穂揺れ田畑守った底力

東 良子

どうどうと抱きしめ眠る夏座布団

片山 幸美

鯛や墓参の遅れ詫びながら

鈴木 順子

川柳

阿南川柳会 選

思い出の村の行事が消えて行く

佐藤つたえ

本当を言って前のは嘘と知れ

高木 旬笑

もう五年いつのまにやら都会っ子

多田紀久代

反省とツケの重さは正比例

橋本 征介

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

石榴翠樹聳籬中

石榴の翠樹 籬中に聳え

秋果垂垂揺午風

秋果垂垂 午風に揺らぐ

皮裂向天開口廣

皮裂 天に向かつて開口広く

看非皓齒駭人紅

看非皓齒に非ず 人を駭かせて紅なり

孤村秋老暮寒生

孤村秋老いて 暮寒生じ

唧唧蛩蟲草底鳴

唧唧たる蛩虫 草底に鳴く

照出閑居三五月

照らし出づる閑居 三五の月

清貧方は傲君情

清貧方には是れ 君に傲うの情

原 美智子

石榴の翠樹 籬中に聳え

秋果垂垂 午風に揺らぐ

皮裂 天に向かつて開口広く

看非皓齒に非ず 人を駭かせて紅なり

孤村秋老いて 暮寒生じ

唧唧たる蛩虫 草底に鳴く

照らし出づる閑居 三五の月

清貧方には是れ 君に傲うの情

折野 博子

橋畔風寒絶境秋

橋畔風寒は寒し 絶境の秋

夕陽染め出だす

夕陽染め出だす 錦溪の流れ

平家逃竄 隠栖の里

赤旆今に留む 一片の愁

一般応募

バック転が出来て夕焼け美しい

吐き出せぬ胸のつかえが眠らせぬ

島尾美津子

武田 敏子

